

SY3-5

子どもの齲蝕と定期健診の重要性

野々村 榮二

野々村小児歯科クリニック

わが国の小児歯科は子どもの虫歯の洪水と言われた時代から歴史が始まっています。齲蝕の多発期にある小児を対象とする小児歯科では、齲蝕のない健全な永久歯を育成することが最大の目標になります。齲蝕は毎日の間食生活や歯みがきなどの生活習慣の影響が大きく反映します。小児期には乳歯から永久歯へと交換する身体的変化とともに生活面でも就園就学などの大きな変化があります。このような観点から考えると齲蝕を予防するには1回のみの処置や保健指導では不十分であり、その成長発達段階や小児を取り巻く生活環境の変化に応じた長期的な指導が必要となります。誰もが齲蝕原因菌に感染している口腔内では常に歯牙表面で脱灰と再石灰化のせめぎあいが起こっていると考えられます。齲蝕へと進む条件が揃うと、脱灰と再石灰化のバランスがくずれ、脱灰する力の方が再石灰化する力を上回る状態が続きます。その結果、歯牙が崩壊し齲蝕が発病します。すなわち、感染した小児はすぐに齲蝕になるのではなく、発病の条件がそろってはじめて齲蝕になります。定期健診には齲蝕が発病する条件がそろわない様に小児の生活変化も含めた成長発達時期に応じた齲蝕予防処置や保健指導を行い、齲蝕の発病を抑え健康を保つという意義があります。当院では開業当初から齲蝕予防を意識し、歯科衛生士担当制による定期健診を軸としたシステムを作り診療を行ってきました。定期健診ではフッ素塗布などの予防処置以外に、特に小児の生活環境から影響を受けやすい間食生活の指導に力をいれています。このような定期健診を当院で長期間にわたり受けていた小児を対象に、その管理年数の長さによって齲蝕がどれだけ抑制されているかについて調べました。その結果、管理年数が長いほど著明な齲蝕の抑制がみられ、その重要性が明らかになりました。近年、小児の齲蝕が減少してきていますがまだまだ撲滅されたとは言いがたく、予防の難しい隣接面の齲蝕などをいかに予防すべきかなど課題が残っています。このような課題を克服するためには、定期健診による一人ひとりにあったオーダーメイドな保健指導が望まれます。わが国全体でみると定期健診を受診している小児の数はまだまだ少ないのが現状です。定期健診の重要性をさらに社会にアピールしていくことが大切と思われます。